

「いしかわ里山塾」(穴水班)への参画 ～ふるさと教育の推進～

団体名 ● いしかわ里山塾 (穴水班) : 池田ゼミナール / 代表者名 ● 池田幸應 (人間科学部スポーツ学科教授)

はじめに

2020年度においても世界農業遺産活用実行委員会から本学地域連携センターへの委託事業として「いしかわ里山塾」が昨年度に引き続き実施された。

人間科学部スポーツ学科池田ゼミナールは、これまで継続的に穴水町において野外教育推進・地域貢献活動を行っており、本年度も昨年度に引き続き穴水町での里山里海での人々の暮らしについて、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の中、感染防止の大学指針に基づく範囲内での地域資源調査活動を行い、地元の穴水町立向洋小学校及び穴水小学校児童のふるさと教育と連動させ、地域資源の再発見、ふるさと意識向上につなげることを目的とした。

活動内容

池田ゼミナール学生(3年次8名、4年次8名)は、奥能登地域「穴水町」についての昨年度実施活動の確認や関連資料、webリサーチ等の事前調査を行った。2020年10月16日(金)・17日(土)[1泊2日]での地域資源調査活動として、穴水町教育委員会、穴水町観光交流会課、(一財)穴水町文化・スポーツ振興事業団、石川県立穴水高等学校、輪島警察署等との連携協力により「あなみずサイクリングリサーチ」を企画、実施した。9月上旬から10月上旬にかけて、コースの設定、自転車・ヘルメットのレンタル確認、レンタカーの手配、宿泊施設の確保、自転車のマナー講座の当該警察署への依頼等、関係連携団体との打合せや調整、確認を行った。

サイクリングリサーチは、穴水町の恵まれた里山里海環境について学生目線で感じ、アウトドアスポーツツーリズムや児童へのふるさと教育の推進に寄与するために、金沢市から穴水町までの往復手段を自動車(レンタカー)、列車(七尾線+のと鉄道)、定期高速バス(北陸交通)を利用し、現地においてもほぼ全町内エリア約40kmを自転車で移動し、実際に学生目線で自分たちの肌で穴水町の自然、歴史等の地域環境や地域課題について感じるものであった。

<日 程>	
(10月16日(金) 第1日目)	
【Aグループ】 □ 8:00 金沢星俣大学集合、出発 (山形環状線-能登里山海道) □ 10:00 穴水駅 到着 ※ 当日10/15の17:30までにトヨタレンタカー-元町にて車両検査、大学正副教職等へ駐車	【Bグループ】 □ 7:02 粟金沢駅発(七尾線) □ 8:27 七尾駅着 □ 8:55 七尾駅発(JR七尾線 普通 穴水行き) □ 9:58 穴水駅着
【A・Bグループ】 □ 10:00 穴水駅周辺(道の駅「あなみず」「穴水町物産館 四季彩々」など) □ 10:30 さわやか交流館ブルーポート(2階研修室) ・「穴水町の概要」について(観光交流課担当職員より) ・ミニ安全指導(輪島警察署文彦課より) ・レンタル自転車の使用説明、注意事項 □ 11:00 サイクリングリサーチ スタート → 穴水町役場へ	
【A・Bグループ】 □ 11:30 穴水町役場(穴水町長への表敬訪問) → 口原驛の道 → □ 12:40 各自中心市街地での視察・ヒアリング活動 (移住定住促進協議会、商店街など) ※昼食を兼ねる □ 14:30 あすなろ広場 → □ 穴水町宮上公園 → □ のとふれあい文化センター □ 15:00 (一財)穴水町文化・スポーツ振興事業団(のとふれあい文化センター) ・二谷謙弘氏(事務局長)との対談 □ 16:00 石川県立穴水高校 ・高校生(生徒会執行部)との地域についての意見交換(※校長:伊谷聡史 先生) □ のとふれあい文化センターへ(徒歩で) ※自転車本体を役場職員が回収、役場公用車(上野・松尾重頼)でレンタサイクル16台を車まで配送(配送先-A8台を竹太地区、B8台を留番地区へ)	

サイクリングリサーチ活動の1日目スケジュール

特に4年次学生は、昨年度においても同町で様々な活動に参画しており、今回初めて訪町した3年次学生との意見、情報交換を行い、奥能登地域や穴水町についての情報共有を図った。



役場職員からのレンタサイクル説明(左)



輪島警察署交通課担当警察官の安全講習(右)

今回の活動は、穴水町における里山里海、その風土を学生目線で感じ、知り、考え、地元小学生の地域資源の再発見、アウトドア・スポーツ・ツーリズム、ふるさと教育の推進に寄与するものであり、学生の得られた知見を「2020年度いしかわ里山塾(穴水町班)事業」での小学生への出前授業において活かし、加えて「あなみずスポーツツーリズム推進事業」での委員会においても報告する。

小学校への学生による出前授業について、昨年度は向洋小学校5・6年生が対象であったが、本年度においては、町内には2小学校の存在のみであるため、



石川町長への挨拶(左)

町内を自転車移動する学生たちの様子(右)

両校を対象とし、交流、提案型報告会を遠隔(zoom)実施した。2月22日(月)の出前授業は、穴水町教育委員会のシステム支援により、学生たちが穴水町地域情報センター2階研修室から遠隔(zoom)で2校へ同時配信した。授業は、学生による一方向の講義形式ではなく、児童と同じ目線に立ち、アイスブレイク、世界農業遺産、SDGs関連のクイズ、大学生の穴水町での調査・視察及び体験活動から学んだ内容が報告され、双方の理解が深められた。



穴水町地域情報センターでの出前授業の様子(左)

2小学校の児童に遠隔授業する学生の様子(右)

今回、向洋小学校では6年生10名、穴水小学校では4年生24名が特に「穴水町」についての総合的な学習の時間や社会科の時間を使ってのふるさと教育を推進しており、事前検討時において、各学校側での授業とマッチングする形で学生の出前授業を設定しており、対象クラスが選定されている。これまで、池田ゼミナール学生のOB・OGが同町において様々な町の事業や行事に連携参加していることを教育委員会関係者や両小学校の校長、教頭、教諭の方々も知っており、出前授業の計画、実施に際しては、大きな協力を得ながら進めることができた。

成果、結果の考察

まず、サイクリングリサーチ活動では、穴水町への往復移動も含め、観光客と同じような目線に立つことで、金沢市-穴水町の道のりにおける車窓からの魅力も発見でき、町内ほぼ全域の自転車による移動により、穴水町の地域環境に触れ、コロナ禍ではあったが可能な範囲で住民との交流機会も得ることができた。これには自転車での移動が大きく起因しており、単にバス等で町内移動した場合には、このような効果は得られなかったものと考えられる。また、地元唯一の高校である石川県立穴水高等学校での生徒会執行部の方々と意見交換の場を持つことができ、地元の若者が地域活性化に関与することで新たな穴水町の魅力を発信できることが期待された。

小学校への出前授業については、遠隔ということもあり、小学生、特に穴水小学校での4年生にとって対応できるかが心配されていたが、授業終了後の児童からのアンケート調査結果からも、児童のふるさと教育の推進に寄与できたものと推測される。

学生たちが穴水町の地域資源に気づき、地域住民との交流を通して地域課題についても理解を深めることができた。特に小学生へのふるさと教育への出前授業により、地域貢献のあり方についても深く考える機会を得たものと考えられる。穴水町での一番の課題は人口減少及び過疎高齢化であり、まず町民、特に子どもたちへのふるさと教育推進による地域への愛着度アップを図り、地域の魅力情報発信が関係人口増加へとつながるものと考えられる。

今後の課題、展望

活動経験を活かし、地域行事や行政施策等と連動化し、協働での里山里海体験活動を推進しながら穴水町の地域の魅力について配信して行きたい。